

令和7年度 墨田区立寺島中学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 田中 茂和

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「深く考え自ら学ぶ生徒」 ・「心豊かで思いやりのある生徒」 ・「健やかでたくましい生徒」
目指す学校像	地域から信頼される学校。 生徒が期待感を胸一杯に膨らませながら登校し、一日の学校生活が終わった後、生徒が、満足感をたくさん得て下校することができる学校。
目指す生徒像	明るく、元気に、たくましい 『知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性をもつ生徒』 ♥『ダイヤモンドの輝きを放つ寺中生 ～何でもNo.1～ 』
目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の模範となる教師 ・教育に対する熱意と使命感を強くもつ教師 ・豊かな人間性と思いやりのある教師 ・生徒のよさや可能性を引き出し伸ばす教師 ・組織人としての責任感、協調性を有し、互いに高め合う教師 ・自己研鑽、相互研鑽をする教師 ・健康な体を維持できるようにする教師 ・チームワークが良い教師集団（TEAM教職員） ・服務事故を絶対に起こさない教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容

『明るく、元気に、たくましく、ダイヤモンドの輝きを放つ寺中生 ～何でもNo.1～ 』の育成。

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	確かな学力の定着とさらなる向上	①ロイロノートの活用を含めたICT機器と印刷物等を有効活用する。	4 「教師の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答100%	3	4 ICT機器と印刷物を活用した授業の実施率 80%以上	4	講師も含めた全教員がロイロノートと印刷物を活用しながら授業展開をしている。	ICT機器に頼り過ぎることなく、紙の良い点も改めて考慮し、それらのよさを活かしながら、授業を展開していく。	A	A	・特に、不登校生徒等に対するオンライン授業が積極的にできるよう、整備を進めて欲しい。 ・学力がアップし、学習の改善が進み安心した。 ・落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組んでいる。
			3 「教師の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答80%以上		3 ICT機器と印刷物を活用した授業の実施率 70%以上						
			2 「教師の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答60%以上		2 ICT機器と印刷物を活用した授業の実施率 60%以上						
			1 「教師の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答60%未満		1 ICT機器と印刷物を活用した授業の実施率 60%未満						
		②数学・英語の少人数指導や各教科でより効果的なジグソー学習（グループ学習）を取り入れた授業を展開する。	4 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答100%	3	4 少人数指導とグループ学習授業の実施率 80%以上	4	数学・英語の少人数指導は計画通り実施できており、各教科のグループ学習も意図的に実施できている。	少人数指導やグループ学習といった形を作るだけでなく、その学習方法による効果を上げるための授業展開をしている。	A	A	・学習に意欲的に望む生徒を育成し学力の更なる向上に努めて欲しい。 ・生徒の現状を分析し、学力向上に向けた取組をして欲しい。
			3 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答80%以上		3 少人数指導とグループ学習授業の実施率 70%以上						
			2 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答60%以上		2 少人数指導とグループ学習授業の実施率 60%以上						
			1 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答60%未満		1 少人数指導とグループ学習授業の実施率 60%未満						
		③iPad等を活用した家庭学習を習慣化させる。	4 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答100%	3	4 iPad等を活用した家庭学習の実施率 80%以上	3	進路学習指導部が中心となり、振り返り期間も含め、各学年でiPadを活用したりした家庭学習に取り組むよう推進している。	ICT機器を活用した家庭学習では、実施状況の確認が難しい。自主的な取り組みとさせる方策を考えていく。	B	A	・学力向上には家庭の協力も必要である。保護者会や学校便り等で、積極的に協力を求めるべきである。 ・宿題の習慣づけをしてほしい。
			3 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答80%以上		3 iPad等を活用した家庭学習の実施率 70%以上						
			2 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答60%以上		2 iPad等を活用した家庭学習の実施率 60%以上						
			1 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答60%未満		1 iPad等を活用した家庭学習の実施率 60%未満						
生活指導等	①昨年度までの二年間の研修の成果を活かしたインクルーシブ教育を実施する。	4 「UD化を意識した授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答100%	2	4 インクルーシブな授業の実施率 80%以上	3	各教科担任の意識の向上に努めるとともに、昨年度までの研修を生かした授業展開を積極的に取り入れていきたい。	教室内に支援が必要な生徒数が増加傾向にあり、個別の指導計画を綿密に立てる必要がある。	B	A	・墨田特別支援学校との生徒同士の交流をもっと深めると共に、教員の指導方法のスキルアップを図ってほしい。	
		3 「UD化を意識した授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答80%以上		3 インクルーシブな授業の実施率 70%以上							
		2 「UD化を意識した授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答60%以上		2 インクルーシブな授業の実施率 60%以上							
		1 「UD化を意識した授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答60%未満		1 インクルーシブな授業の実施率 60%未満							
		②特別支援コーディネーターを中心とした教育相談部会を週1回実施する。	4 「不登校生徒の改善に繋がった」等の肯定的な回答100%	2	4 不登校生徒の解消人数 1人以上	2	SSRの活用で、不登校生徒の居場所づくりはできている。	新たな不登校生徒を発生させない為、日常の学校生活をより楽しく、充実したものにしていける必要がある。	B	A	不登校生徒の対応として、一人でも改善するよう家庭や関係諸機関と連携して、その改善に努めて欲しい。
			3 「不登校生徒の改善に繋がった」等の肯定的な回答80%以上		3 不登校生徒の解消人数 0人						
		2 「不登校生徒の改善に繋がった」等の肯定的な回答60%以上	2 新たな不登校生徒の発生日数 1人以上								
		1 「不登校生徒の改善に繋がった」等の肯定的な回答60%未満	1								

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
		③道徳をテーマとした校内研修会を年6回実施し、授業者ローテーションを行いながら生命尊重と人権尊重の精神等を涵養する授業を実施する。	4	「いじめのない学校」等の肯定的な回答100%	4	4	いじめの発生件数 0件	3	早期発見、早期解決に向け、いじめ検討委員会での情報を共有しながら、発生時の対応を丁寧に行っていく。	健全な人間関係を保っていく上で、思いやりの心など、心を育てる教育を継続して実施していく。	B	A	・安心して学校生活が送れるよう、今後も未然防止、早期発見、早期解決に努めて欲しい。 ・挨拶もよくでき、先生方の指導が実っている。
			3	「いじめのない学校」等の肯定的な回答80%以上		3	いじめが発生した場合の解消率 100%						
			2	「いじめのない学校」等の肯定的な回答60%以上		2	いじめが発生した場合あの解消率 100%未満						
			1	「いじめのない学校」等の肯定的な回答60%未満		1							
学校の管理運営	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う	①学校支援部会として、主幹会や企画調整会議を各週1回実施する。	4	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答100%	3	4	学校関係者評価 A	4	学校支援部会として、主幹会や企画調整会議を計画的に実施し、起案事項や学校の現況等、共通理解を図っていく。	主任教諭に積極的に役割を与え、学校運営への参画意識の向上を図っていく必要がある。	A	A	・教職員の働き方改革を推進し、教職員が生き生きと働くことができる環境を整えて欲しい。 ・一生懸命に取り組む生徒が多く、それを先生方が支えてくれている。
			3	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答80%以上		3	学校関係者評価 B						
			2	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答60%以上		2	学校関係者評価 C						
			1	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答60%未満		1							
		②主幹・主任が中心となって運営され、報告・連絡・相談を徹底する。	4	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答100%	4	4	学校関係者評価 A	3	3人の主幹教諭を中心とし、教務・生活・進路の分掌や学年経営が円滑に進んでいる。	改めて、報告・連絡・相談を徹底させ、かつ主任教諭の適材適所による活用を進めて行く。	B	A	・職員の雰囲気は良く、皆一生懸命に働いている。個々の教員の力が十二分に発揮されることを期待する。
			3	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答80%以上		3	学校関係者評価 B						
			2	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答60%以上		2	学校関係者評価 C						
			1	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答60%未満		1							
		③授業評価、学校評価等を、年度末に実施する。	4	「教育目標が達成された」等の肯定的な回答100%	3	4	学校関係者評価 A	4	授業評価、学校評価等を、年度末に実施する。	評価から改善を要する項目を整理し、具体的な取り組みを各分掌に検討させていく。	A	A	・保護者アンケートや授業アンケートを継続し、授業改善に努めて欲しい。 ・生徒数も増加傾向にあり、生徒が生き生きとしている。評価を生かして更に盛り上げて欲しい。
			3	「教育目標が達成された」等の肯定的な回答80%以上		3	学校関係者評価 B						
			2	「教育目標が達成された」等の肯定的な回答60%以上		2	学校関係者評価 C						
			1	「教育目標が達成された」等の肯定的な回答60%未満		1							
家庭・地域連携	地域、保護者から信頼される学校運営等を行う。	①学校だより、学年だより、保健だより、給食だより等を月1回以上発行する。	4	「学校からの情報が発信された」等の肯定的な回答100%	3	4	学校評価の肯定率 80%以上	4	学校だより、学年だより、給食だより等を毎月発行し、学校からの情報を伝えている。保健便りが滞っている。	毎月発行のたよりは、タイムリーな内容に沿ったもので発行するようにしていく。	A	A	・学校便りや学年便り、ホームページ等で、生徒の活躍や学校の情報を積極的に発信してほしい。
			3	「学校からの情報が発信された」等の肯定的な回答80%以上		3	学校評価の肯定率 70%以上						
			2	「学校からの情報が発信された」等の肯定的な回答60%以上		2	学校評価の肯定率 60%以上						
			1	「学校からの情報が発信された」等の肯定的な回答60%未満		1	学校評価の肯定率 60%未満						
		②PTAや学校運営連絡協議会、寺中地区青少年育成委員会と連携する。	4	「信頼できる学校である」等の肯定的な回答100%	3	4	学校関係者評価 A	4	PTAや学校運営連絡協議会、寺中地区青少年育成委員会と連携しながら、学校運営を進めている。	教員へ、PTAや育成委員会主催の行事への積極的な参加を促していく。	A	A	・同窓会や地域人材、地場産業を積極的に活用し、子どもたちの健全育成につなげて欲しい。 ・PTA公式LINEを継続し、卒業生の公式LINEを今後立ち上げていく。
			3	「信頼できる学校である」等の肯定的な回答80%以上		3	学校関係者評価 B						
			2	「信頼できる学校である」等の肯定的な回答60%以上		2	学校関係者評価 C						
			1	「信頼できる学校である」等の肯定的な回答60%未満		1							
		③行事の公開以外で学校公開を年3回実施する。	4	「学校生活が安定している」等の肯定的な回答100%	3	4	学校評価の肯定率 80%以上	4	学校公開を計画通り実施できている。都度、保護者アンケートも実施し、意見や考えを収集している。	幼保小中の連携を意識した授業や生活指導を常に考えながら、学校教育を進めていく。	A	A	・小学校から中学校へ、そして高校へのつながりを考え、連携を深めてほしい。 ・悪い噂は全くないので、今後も期待している。 ・次年度からのCSにも期待する。
			3	「学校生活が安定している」等の肯定的な回答80%以上		3	学校評価の肯定率 70%以上						
			2	「学校生活が安定している」等の肯定的な回答60%以上		2	学校評価の肯定率 60%以上						
			1	「学校生活が安定している」等の肯定的な回答60%未満		1	学校評価の肯定率 60%未満						

○令和7年度 学校経営報告のまとめ（総括）

東京都教育委員会の目標、墨田区教育委員会の教育目標を受け、「知」・「徳」・「体」のバランスのとれた子供の育成を目指し、「深く考え自ら学ぶ生徒」「心豊かで思いやりのある生徒」「健やかでたくましい生徒」の3つの教育目標の達成に向け教育活動を進めてきた。本校の教育活動は、「明るく元気で逞しく」、「ダイヤモンドの輝きを放つ寺中生～何でもNo1～」をスローガンに掲げ、学校の教育目標の達成を目指しながら、生徒を育成することをねらいとしている。今後も、生徒が知性、感性、道徳心や体力を育み、人間性豊かに成長することを願い、よりよい教育活動を展開していく。

学校の教育目標の達成を図るためには、教職員一人一人がそれぞれの職務を遂行し、互いに認め合い、高め合い、そして明るく元気な全教職員で全生徒を見守りながら教育活動に寄与していく必要がある。またPTAや青少年育成委員会、町会や地域の方々等、本校を支えてくれ応援していただいている関係各位がそれぞれ「TEAM」としての活動をし、それらの力を結集し「学校」、「家庭」、「地域」、「関係諸機関」が連携することも要する。

今後の学力調査において、更なる向上を目指すためにも、紙の良さを改めて取り入れながら、ICT機器もより有効活用し、授業や家庭学習を更に充実させていく。生活指導面でも、いつも生徒が安心して生活できる学校であるために、継続した指導と、道徳教育等を中心とした心の教育をより充実させ、その徹底を図る。学校行事も伝統を大切にしながらも新しいスタイルでの実施を検討し、リーダーの育成と共に、生徒一人一人が活躍できる場を設定していく。

教材・教具を含め、生徒が意欲的に学習に取り組むことができる教育環境を整え、「学力の向上」、「体力の向上」、「心の教育」を進め、生徒が期待感を胸一杯に膨らませながら登校し、一日の学校生活が終わった後、生徒が満足感をたくさん得て下校することができる教育を推進する。そのことが「地域から信頼される学校」に繋がると考える。地域・保護者に、本校の教育活動の更なるご理解を得るために、連携をより一層深めると共に、情報の発信を充実させていく。